

パターンプラクティスから即興のやり取りに発展させる言語活動の工夫

— Quick Response による一問一答から継続性のある対話を生み出す指導の実際 —

水川 航生 ・ 樫葉 みつ子*

1. はじめに

2015 (平成 27) 年度より, 広島大学附属東雲中学校 (以下, 本校と略記) では, 「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う教育の創造」という研究テーマを設定し, 実践研究を進めてきた。先進校における先行研究から示唆を得ながら, 本校の教育目標を基盤とした教育研究を進める中で, 主体性・協働性・多様性の 3 つの観点に着目した。異なる文化や歴史, 価値観を理解し認め合いながら, 自分の考えや思いを積極的に発信し, 他者と協力しながら問題解決に取り組むことで, グローバル時代をきりひらく資質・能力が開発されるという認識である。同時に, この資質・能力の開発に関わって, 学びを豊かにする授業づくりに取り組んできた。

外国語科では, 積極的に協働的問題解決を学習過程に取り入れた授業づくりの工夫を行った。その結果, 学習方法論の一つとして協働的問題解決が一定の成果につながった一方, 単一の方法論のみでは資質・能力の育成に十分に迫れないことも明らかになってきた。多様な学習活動の開発や実際の授業における細かな配慮など, より幅広い意味でのカリキュラム開発の工夫が求められるということである。また, 授業において学びを豊かにするためには, 外国語科という教科そのものの特性を十分に理解していることが不可欠である。教科の特性を理解しているということは, 教科本来のもつ本質的な魅力を知っているということである。

本稿では, 学習指導要領の改訂ポイントの一つである「見方・考え方を働かせる」ことに関連させ, 外国語科本来の魅力に基づき, 生徒にとって学習することが面白く, 自分の成長が実感できる言語活動を一例取り上げ, 新しい学習指導要領が標榜する「主体的・対話的で深い学び」につながる実践の具体を提案する。

2. 研究の目的

「外国語 (英語) が使える日本人」の育成は, 産業界からの要請にとどまらず, 国民全体の潜在的願望でもあり, もはや国家的悲願であると言っても過言ではない。一方で, 現実に目を向けると, 外国語を自在に操って専門的な仕事をする人は勿論, 日常生活レベルで不自由しない程度の外国語を扱える人も限られているのが実際である。そういった背景から, 英語を話すことができるということが未だにある種羨望の対象になっていると言える。

このような実情を鑑みてか, 新しい学習指導要領では, 外国語科の目標や求められる資質・能力が, より具体的かつ詳細に定義されている。4 技能の中では, とりわけ「話すこと」について大きな変更が加えられた。「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」の 2 つの領域に細分化され, それぞれの領域に「即興で」という表現が加えられている。このことから, 暗唱のような準備されたスピーチやプレゼンテーション型の言語活動から, コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて, 情報を整理しながら考えなどを形成し, 柔軟に対話や描写, 説明を行う言語活動に比重をおこうという意図が読み取れる。即興性は, 日本人の弱点の一つであるというのは事実である。とは言え, 即興性を構成する要素は多様であり, 一朝一夕に身につくものではない。そこで, 本研究では, 継続的な質問と応答のドリルに焦点を絞り, 執筆者の言語活動が話す技能の向上にどのように作用するのかを示したい。

一口に「話すこと」と言ってもその幅は広い。今回は, 初歩的なコミュニケーションである一問一答 (Questions and Answers) 型の言語活動について取り上げ, パターンプラクティスの積み上げによって, 基本となるテンプレートを身につけながら, 次第に相手の返答に応じて, 対話をふくらませ, 継続させていく態度や技能を身につける指導の工夫を紹介する。

* 広島大学大学院人間社会科学部研究科

MIZUKAWA Koki, KASHIBA Mitsuko

Device to plan language activities in order to develop pattern practice into improvised communication the actual process to produce continuous conversation by a series of Quick Response, a question-and-answer session.

3. 概要

3-1. 言語活動 Quick Response の実施方法

ワークシート(図1)を使い, 二人一組のペアで行う。ワークシートには, 質問文とそれに対する応答例文を30セット用意しておく。質問文は, 習熟させたい基本的な日常表現や現在学習中のキーセンテンスを中心に構成する。また, 既習事項や近い内に導入する予定である言語材料を意図的に盛り込むと, 適度な刺激が生まれ, スパイラルな学習になるので効果的である。未習の言語材料については, 簡単なオーラルイントロダクションを行うにとどめ, 詳細な文法的解説を与えることはしない。言語活動での活用を通して帰納的な理解や習得を促すことは, アクティブラーニングとしての学習効果が期待できる。

この言語活動は, 質問者(interviewer)と回答者(interviewee)を固定し, 予め設定した制限時間の間, 質問と回答をひたすら繰り返していくターン制のペアトークである。質問・回答の速度に拘って実施することがポイントとなる。図1では, 制限時間を3分間(1応答6秒相当)とした。指導者の合図で一斉に開始し, ブザー等で終了を告げる。カウントダウンタイマー等を用意し, 経過時間を学習者が把握できるようにすると良い。最初の活動の終了後, 質問者と回答者が, それぞれ所定の欄に対話の成立回数を記入する時間を設ける。

その後, 質問者と回答者を交代して再度言語活動を行う。すなわち1回の活動は2ターン制であり, インターバルを含めた所要時間は8分程度である。執筆者は, この活動を授業のウォームアップに位置づけており, 授業の冒頭に帯活動とし実施している。ある程度回数をこなした言語材料に習熟してきたタイミングで, 質問と応答を更新した次のバージョンを与える。なお, 図1のバージョンでは, 最大計10授業回行うものとして設定した。

3-2. 言語活動のねらいと期待する効果

質問とそれに対する応答を繰り返すことでインプット(input)を増やし, 言語材料や構文への理解を次第に深めていき(intake), それによって実際の言語使用場面で自然に表現が口について出る(output)ことをねらいとする。速度を求めることでリズム感のある質問と応答のやり取りを繰り返す内に, 素早く正確に質問や応答する技能が高まるとともに, オーラルでの英問英答に対する心理的障壁を下げる効果が期待できる。また, 対話の成立回数を記録し続けることによって, 時系列変化を客観的に見てとることができる。主観的にも自身の成長を感じることができ, コミュニケーションへの内発的動機づけとなることが期待できる。言語活動の機能面から見ると, 質問者と回答者を固定することでシングルタスクとなり, 一つの活動に集中して取り組むことが可能となる。その結果, プラクティスとしての強度(intensity)を高めることができると考える。

3-3. 評価と指導上の工夫

基本的に質問と応答の速度を求め, 対話の成立回数を成果指標として数量評価する。例を挙げると, 「制限時間は3分間, 質問と応答を1セットとして, 25セット以上を目標に対話をしよう」など, 目安となる数値目標を具体的に事前に与えることがポイントとなる。目標値の設定は, 学習集団の達成平均値や中央値を参考に, 最初は10%程度高くすると目標達成への意識が高まる。なお, 回数を重ね慣れてくるにつれ, 学習者の習熟状況を見ながら目標値を上げていけば良い。また, 与えられた質問と応答のセットを制限時間内に終えたペアは2週目に入るよう指示する。さらに, 制限時間内に2週目に入るペアが増えれば, 制限時間自体を短縮すると適切な負荷を維持することができる。いずれにしても, 目標を明確に設定することで, 集中して活動に取り組む環境づくりが大切である。また, 前項でも述べたように, 毎回成立回数をワークシートに記入していく中で, 学習者は自己の成長を数値として客観視していく。このことは, 目標値の明示と合わせ, 指導と評価の一体化としての意味を持つことにつながる。

		Name()									
Questions		Answers									
1	Are you 12 / 13 years old?	Yes, I am. / No, I'm not.									
2	Are you from ...?	Yes, I am. / No, I'm not.									
3	Are you fine/sleepy/hungry/etc. ?	Yes, I am. / No, I'm not.									
4	Do you like ...?	Yes, I do. / No, I don't.									
5	Do you play ...?	Yes, I do. / No, I don't.									
6	Do you have ...?	Yes, I do. / No, I don't.									
7	Do you ...?	Yes, I do. / No, I don't.									
8	Is this(that) a ...?	Yes, it is. / No, it's not.									
9	What day is it today?	It's ...day.									
10	What is the date today?	It's									
11	What time is it now?	It's									
12	What is this(that)?	It's a									
13	What is your favorite ...?	My favorite ... is									
14	What sports do you play?	I play									
15	What ... do you like?	I like									
16	What food do you have for breakfast?	I have									
17	How is the weather today?	It's									
18	How do you come to school today?	I come here by ... / on foot.									
19	How old are you?	I'm 12 / 13 years old.									
20	How many ... do you have?	I have ... (...s).									
21	Does (男性) play / like / ... other verb ...?	Yes, he does. / No, he doesn't.									
22	Does (女性) play / like / ... other verb ...?	Yes, she does. / No, she doesn't.									
23	What sports does he / she play?	He / She plays									
24	Which do you like, a cat or a dog?	I like a cat / a dog.									
25	Who is this(that)?	It's									
26	Who is (先生の名前) ?	He / She is a (教科名) teacher.									
27	Who is ...?	He / She is									
28	Who plays ...?	... does.									
29	When is your birthday?	My birthday is									
30	What do you usually do after school?	I usually									

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Date	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
Name										
Number										

左側に「自分が質問したときの数」, 右側に「自分が質問されたときの数」を記入する。

図 1

3-4. 指導上の留意点

パターンプラクティスだとしても対話形式である以上, 相手意識を持たせる必要はある。アイコンタクト, 表情による表現 (facial expression), あいづちや頷き, 同意や共感, 驚きや聞き返し等の反応を含めた包括的な方略的能力 (strategic competence) を積極的に活用し, 対話の真正性 (authenticity) を高めることが, 学習効果や学習満足度の向上につながる。現 2 年生を対象に行ったアンケートにおいて, 「対話の際には, 相手の目や表情を意識的に見ようとしているか」 (以下質問 1) という質問に対し肯定的な回答をした生徒の割合は, 一昨年 4 月の約 60% に対し昨年 9 月は約 90% であった。また, 「対話を行った際, 嬉しいと感じたり, 充実感を味わったりするのはどんなときか」という自由記述の質問に対して昨年 9 月に寄せられた回答には, 「言いたいことや伝えたいことが英語で言えたとき」「相手が頷きや反応を返したり, 聞き返したりしてくれたとき」という回答が最も多く寄せられた。さらに, 質問 1 で肯定の度合いが最も高いグループは, 後述の表 1 における対話の成立回数の上昇値が最も高かった。サンプル数が十分ではないためあくまで参考にとどめるが, 例えそれが機械的な練習 (mechanical practice) であったとしても, 相手意識が言語活動に優位な特性を付与する (buff) ことを示唆していると捉えている。今後, 継続的にアンケートを実施し, データ集計を進め相関分析を行いたい。



初級の学習者にとって, アイコンタクトやあいづちや頷き, 聞き返しを意識して行うことは特に重要である。従ってワークシートに頼りきり, ペーパーと会話するという状況に陥らないように注意したい。単に「読む」ことと, 相手を意識して「話す」ことでは, 伝わり方やアウトプットの質が異なる。それが積み重なっていくと, スキルの習得面で得られる効果が変わってくることになる。相手を意識し自分の気持ちや考え, 情報を伝

えようとすることでコミュニケーションが始まる。機械的な言語活動の中に実践的コミュニケーションの要素を組み込むことで, 単純な練習を実際の実践に近づけることができる。

指導時における一例を挙げてみる。ワークシートを机に置くと, どうしてもお互いが向き合わず, 机やペーパーとの対話になりがちである。そこで, 執筆者の場合, ペアワークの際はイスの向きを変えさせ, ペアがお互いに正対するようにしている。些細な環境づくりではあるが, これによって相手意識が高まり, アイコンタクトのチャンスが増える。また, Quick Response のような言語活動を帯で行うと, ドリルによる言語材料への習熟が進み, ワークシートへの依存度は下がってくるはずである。指導者は学習者の達成状況を見とりながら, 「質問する人は Read and Look up で, 応答する人はワークシートを見ずにやってみよう」と促すと良い。学習者それぞれが自分の習熟度を判断し, 言語活動がよりコミュニケーションになるように工夫する習慣をつけていくということである。そのため, 指導者は言語活動中に積極的に机間指導を行い, ペアワークの様子をしっかり観察していくことが重要となる。学習者の小さな変容を経時的に見とりながら, 個々の成長について具体的に評価が与えられるようにしておきたい。言語活動の最中もしくは終了後すぐに適切な評価を行うことで, 自己肯定感を高めることができる。

また, マンネリ化を防ぎ, 言語活動の新鮮さを保つ工夫も必要である。例えば, 同じペアとずっと活動を続けていくと, 質問に対する応答がほぼ変わらないため, インフォメーションギャップがなくなりどうしても作業感が強まってくる。そういったときは, 定期的にペアを変えることが効果的である。同じ質問でも, ペアが変われば返ってくる応答が異なるため, 対話の新鮮さを取り戻すことができる。重要なことは, 学習者が対話を楽しむ態度を養うことである。対話することが楽しいと思えば, 言語材料の吸収が速まることはもとより, 自ら学ぼうとする態度が生まれる。現在の指導者には, スキルや知識を一方的に与える指導 (teaching) だけではなく, 学習者に課題を設定させ, 考えさせたり, 気づかせたりする中で, 適切なヒントを与えることで引き出していく指導 (coaching) が求められている。言い換えれば, コーディネーターやモチベーターとしての役割である。対話的で深い学び (アクティブラーニング) の実現には, 指導者自身の資質, 引き出しの豊かさも問われている。

3-5. 言語活動の拡張性

言語活動 Quick Response はパターンプラクティスであるが、質問文の組み立て方によっては、文脈のある会話に発展させることができる。図 1 は基本的に一問一答で対話が完結する構成であるが、発展版である図 2 は、一部連続性のある対話になるように工夫している。言語活動をくり返し、多様な質問と応答を重ねていく中で、学習者の中には一問一答に物足りなくなり、追加の発問をしたいという欲求が自然に高まってくる。相手のことを知りたい、対話を継続させたいという気持ちの表れであり、大げさに言うとコミュニケーションへの渴望である。そのような様子が見られ始めると、プラクティスの構成を、一問一答で完結するメカニカルなものから少しずつ自然なやり取り (authentic dialog) に近づけていく段階になる。

6 How did you come to school today?	I came here by ... / on foot.
7 How long did it take from your house here?	It took ... from my house here.

Questions	Answers
1 What day is it today?	It's ...day.
2 What's the date today?	It's ...
3 What time is it?	It's ...
4 What time did you go to bed last night?	I went to bed at ...
5 What time did you get up this morning?	I got up at ...
6 How did you come to school today?	I came here by ... / on foot.
7 How long did it take from your house here?	It took ... from my house here.
8 How was the weather yesterday?	It was ...
9 What did you have for breakfast this morning?	I had ...
10 How tall are you?	I'm ... cm tall.
11 How many ... do you have?	I have ...
12 How much do you study at home?	I study for about ... minutes / hours
13 When did you play volleyball?	I played it yesterday / last ...
14 When is your family member's birthday?	My father's / mother's / ... birthday is ...
15 Which do you like better, (A or B)?	I like ... better.
16 What did you do last Sunday?	I ... last Sunday.
17 What is your goal this year?	My goal is to ...
18 What do you want to do in spring vacation?	I want to ...
19 Who can play ... in this class?	... can.
20 Who is your favorite celebrity?	My favorite is ...
21 Where did you go in winter vacation?	I went to ...
22 Where does your friend live?	He / She lives in ...
23 Where do you want to go this Sunday?	I want to go to ...
24 Where do you study at home?	I study in ...
25 Does (男性) play, like 以外の動物 ...?	Yes, he does. / No, he doesn't.
26 Does (女性) play, like 以外の動物 ...?	Yes, she does. / No, she doesn't.
27 Can you play ...?	Yes, I can. / No, I can't.
28 (何か黙して) What am I doing now?	You are ... ing ...
29 What were you doing at eight last night?	I was ... ing ...
30	?

Date: / / Name: Number: 10

左欄：1日目が実施したときの表、右欄：1日目が実施されたときの表を記入する。

Questions	Answers
1 When is your birthday?	My birthday is ...
2 Would you like any birthday presents?	Yes, I would. / No, I wouldn't.
3 What would you like to get? / Why not?	I'd like to get ... / Because ...
4 Did you have breakfast this morning?	Yes, I did. / No, I didn't.
5 What did you have for it? / Why not?	I had/eat ... / Because ...
6 Who usually cooks breakfast for you?	... does.
7 What time do you usually leave home?	I usually leave home at ...
8 What time do you usually get home?	I usually get home at ...
9 Do you like ()?	Yes, I do. / No, I don't.
10 What do you like about it? / Why not?	...
11 Are there any () ()?	Yes, there are. / No, there aren't.
12 How many are there? / Then, how about ()?	There is/are ... / Yes, ... / No, ...
13 Which is () () or ()?	... is ...
14 Which () do you like the best?	I like ... the best.
15 Do you think () is more () than ()?	I think ... is more ... than ...
16 Why do you think so?	I think that's because ...
17 Have you ever been to ()?	Yes, I have. / No, I haven't.
18 How often have you been there? / Where have you been?	I've been there ... times. / I've been to ...
19 Where do you live?	I live in ...
20 Have you lived there since you were born?	Yes, I have. / No, I haven't.
21 How long have you lived there?	I have lived there since ...
22 Have you finished all the homework yet?	Yes, I have. / No, I haven't.
23 What do you enjoy doing at school?	I enjoy ...ing ... at school.
24 What did you like doing when you were a child?	I liked ...ing ... when I was a child.
25	
26	
27	
28	
29	
30	

図 3

図 3 は、よりコミュニケーション的なやり取りになるよう意識して作成したものである。色分けしているように、それぞれ各 2 ~ 3 往復のやり取りを 1 セットとして捉え、それぞれのセット間でつながりのある対話になるよう構成している。また、それぞれのセットの中にターゲットとなる言語材料を意図的に盛り込んでいる。なお、文脈を意識し、やり取りの中で自然にキーセンテンスが使われるように配慮した。

図 2

後半の 25 ~ 30 の質問と応答は、3 往復のやり取りを 1 セットとして構成し、学習者が自由に発問をつくることのできる枠を設けた。既習事項を積極的に活用しながら、文脈のある対話を継続していくことに慣れさせることがねらいである。

また、このような対話の継続に十分慣れさせた上で、Small Talk のような発展的な言語活動につなげることで、実践的コミュニケーション能力をさらに高いレベルに引き上げることができる。本稿では詳述しないが、図 4 は執筆者が行っている

テーマトーク型の言語活動 (Talkative) である。Quick Response で身につけた基本的な疑問文とそれに対する応答に加え、事実や情報を伝える平叙文 (declarative sentence) を加えることで、実際のコミュニケーションに近づけていくのがその趣旨である。パターンプラクティスから実践的コミュニケーションにつなげていく言語活動のあり方を工夫することで、基礎練習としての位置づけである Quick Response に拡張性が生まれ、より汎用的な活動となる。

図 4

Talkative July 1, 2020

Topic :
What are you going to do this weekend?

Example»

A: What are you going to do this weekend?
B: I am going to go shopping.
A: Sounds good. Where are you going to go?
B: I'm going to go to Aeon Mall.
I want to buy some magazines.
A: I see. I want some comic books to read, too.

Date	Topic of the conversation
1	/
2	/
3	/
4	/
5	/
6	/
1	Partner ()
2	Partner ()

テーマはスライドを使い、一括提示する。言語活動終了後に、書く時間を設け、会話内容を writing で再現させる。「話すこと」「書くこと」の統合型活動であり、文脈を意識しながらまとまった文章を書く力を高めることができる。

4. 考察

既習事項を点と点ではなく、線として関連づけていく工夫を施すことで、プラクティスを生きたコミュニケーションに近づけていくことが、本稿の主旨である話す技能の向上に寄与することを論じたい。図 5 は、前項の図 3 のワークシートについて 2 年生の生徒が作成した質問文の例である。図 5 の作文の直前に、There 構文や比較級・最上級を言語材料として扱ったため、それらのキーセンテンスを含んだものが多くなっている。文法上の誤りも見られるが、作文の時点ではコミュニケーションに大きな支障がある全体的誤り (global error) のみ訂正し、局所的誤り (local error) についてはある程度容認する。言語活動中の机間指導で誤りに気づいた場面では、言い直し (recast) をすると良い。即興のやり取りにおいて完全性を求めるのは現実的ではない。誤りを恐れずにトライアンドエラーを繰り返す態度が最も重要である。従って、コミュニケーションが成立する前提で、言語活動を活性化させることを優先し、対話のリズムを乱したり、意欲を下げたりする介入はできるだけ避けることがポイントとなる。

25	Which do you like better playing sport or watching sport?	I like ()	25	Is there a celebrity who you want to meet?	Yes, th
26	What sports do you like to (play/watch)?	I like	26	Who is that?	She/h
27	Which () team do you like?	I like	27	What job does (she/he) have?	She/h
28	Do you like watching movies?	Yes, I do	28	Do you listen to music?	
29	What movie did you watch recently? / How about watching TV?		29	What songs do you listen to? / What is your hobby?	
30	How was it? / What is your hobby?	It was ()	30	When do you listen to songs?	
25	Which do you like Disney or USJ?		25	Who is your favorite (他) (名)?	
26	Did you go there?		26	Why do you like ()? / (理由あり)	
27	How many times did you go there?		27	If you meet (), what do you want to do?	
28	Have you visited a foreign country?	Yes, I have. / No, I h	28	Where do you want to go?	
29	What foreign country did you visit? / Where do you want to visit?		29	Why do you want to go to (場所)?	
30	Who did you go there with? / Who do you want to go there with?		30	Will you live in (場所) in your future?	
25	Do you like to play soccer?	Yes, I do. / No.	25	Is there a pool around here?	
26	Who plays soccer in this class?	OO does.	26	Have you ever been to there?	
27	Do you think that he wants to be a professional soccer player?		27	Who did you go to pool with you?	
28	Do you like to watch movies?		28	Are you interested in sport?	
29	What movie do you like? / Do you like to watch TV?		29	What sport do you play?	
30	Why do you like it? / What do you like to do?		30	Can I play (sport) with you?	

図 5

図 5 の中には、英語を苦手とする生徒も含まれているが、全体的にどの生徒も意欲的に質問文を考え、対話のつながりを意識して構成しようとしていることが窺える。これは、およそ 2 年間をかけて、テンプレートの一問一答の質問と応答に習熟し、その上で会話をふくらませていくことに取り組んできた成果と捉えている。ある質問について、相手の応答に対して追加で質問を行っていくことで対話は継続していく。そのためには、ある質問に対し相手がどう答えるかを想定し、その答えに対して追加の質問を用意しておく必要がある。それは、文脈を生み出す作業でもある。さらに、文脈を読み取れたとしても、質問文を産出するためには、自分が使える語彙や構文の引き出しの豊富さが問われる。

構文について言えば、それぞれ個別のバリエーションとして捉えるのではなく、使用者が自ら関連づけや整理を行い、自分自身のアルゴリズムを構築しておくことが実践的運用力の鍵を握る。言い換えると、自分の得意とする構成パターンを持っておくことである。質の高いアウトプットは、語彙や文法の正確さだけでなく、明確さと論理性 (coherence) を兼ね備えていることである。言語活動 Quick Response のより遠大な目標は、論理的に構文で話す資質・能力を培うことである。

次の表 1 は、言語活動 Quick Response における対話の成立回数を成果指標として量的な考察を行ったもので、2 年生 (80 名) が昨年度行った Quick Response のデータを集計したものである。

表 1

	Quick Response ver.1	Quick Response ver.2	Quick Response ver.3
評価値 ^{※1}	72.4	89.9	84.2
増現値 ^{※2}		+17.5	-5.7

※1 数値は、それぞれ計 20 回の言語活動の平均値を換算したもの
(対話の成立回数の総数の平均 ÷ 設定上の対話の総数 × 100)

※2 数値は、前のバージョンとの増減値

水川航生・榎葉みつ子(2020), 「パターンプラクティスから即興のやり取りに発展させる言語活動の工夫— Quick Response による一問一答から継続性のある対話を生み出す指導の実例 —」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第 50 集」, 23-28.

表 1 の値は全体値であり, 各回の数値変化を読み取ることはできないが, 執筆者の手元にある集計データによると, ver. 1 については回数を重ねるごとに対話の成立回数の数値が有意に上昇している。同様に ver. 1 と ver. 2 の評価値を比較すると, ver. 2 は ver. 1 に比べ+17.5 と大きく向上している。ver. 1 の質問文は, 基本的な日常会話表現と単純疑問文, 特別疑問文で構成されている。ver. 2 では, 三単現の疑問文が加わり, 多少質問文の入れ替えがあるものの, 全体の構成について大きな変化はない。なお, ver. 2 では, 3 分間の制限時間でテンプレートの 30 対話全てが成立し, 2 周目に進むペアが増えてきたことを付け加えておく。このケースでは上限である 30 を超えて全ての成立回数を計上させているため, その結果評価値の上昇幅が大きくなったと捉えられる。いずれにしても, ver. 2 の終了時点で基本的な日常会話表現と単純疑問文, 特別疑問文の質問とその応答には十分に習熟していたと判断した。

それを受けて, ver. 3 では質問文に未習の言語材料(動詞の過去形, 不定詞)を含めたり, 3 回目以降の制限時間を短縮(2 分 45 秒)したりすることで, ハードルの設定を若干上方修正した。ver. 2 と比べ ver. 3 の平均値が-5.7 と下降しているのは, 特に制限時間の短縮が影響していると考えられる。-5.7 という数値変化をどう評価するかによるが, 未習の質問文の導入と制限時間の短縮を考慮すると, 本質的な対話能力が減退したという訳ではない。

Quick Response のように, ある程度統一した条件下で継続的に行う言語活動は, 前述のように質的な変容を見とることができることに加え, 量的な分析が可能となる。質的な変容とは, すなわち学習者の態度や技能が変化していくことであり, その変容を的確に捉えることが指導のスタートとなる。個々の成長に対して肯定的評価を与えたり, 望ましい変容を全体共有したりすることで, 学習集団全体にプラスの効果をもたらすことができる。一方で, 量的な分析は, 主観に左右されず客観的な指標を得ることができる。得られる指標を考察することで, 指導と評価の一体化と親和性が高い。言語学は主観と客観が有機的に交差する奥深い学問である。質的研究と量的研究はお互いに相反するものではなく, 車の両輪と捉えながら, 両者を適切に組み合わせることで研究を推進していくことが必要である。今後も, 言語活動の効果を検証しながら, より効果的で主体的な学びにつながる活動へとアップグレードさせていきたい。

5. 終わりに

好むと好まざるに関わらず, 一層の国際化を余儀なくされる我が国の将来を見据えると, 質の高い実践的コミュニケーション能力をもった日本人を育成することは, 外国語科教育の使命の一つである。そのためには, 技能(skill), 意欲(will), 経験(experience)を兼ね備えた人材を育てる必要がある。思考や行動の範囲が広がり, 新たな出会いやつながりを経験するにつれ, 学びはより複層的になる。外国語科の学びの豊かさは, 主張や対話を通し, 文字通り世界とつながれることに集約されていると言ってよい。ただし, そういう高次の目標に到達するためには, 千里の道も一歩からではないが, 日常の小さな積み重ねで知識や技能を蓄積することが重要であることは言うまでもない。その観点において, 言語材料を効率的に吸収し, 短期間で技能を高めるためには, パターンプラクティスの機能は無視できない。さらに, 本稿で示したようにパターンプラクティスを単なる機械的の反復練習に終わらせないように工夫することで, 少しずつ実際のコミュニケーション活動に近づけていくことが可能となる。今後も学習者にとってより有意義な言語活動となるようアップデートを続けていくとともに, 疑問文に平叙文を加えてやり取りの情報量を増やす発展的な言語活動を組み込み, コミュニケーションの技能や意欲がどのように変容するのかを明らかにしたい。それによって, 実践的コミュニケーション能力を開発するために, より効果的な言語活動を提案できると考えている。

【引用・参考文献】

- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校, 「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造(3 年次) — 学びを豊かにする授業の探究 —, 東雲教育研究会実施要項, 2017.
- 文部科学省「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語編」, 2017.
- 文部科学省国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」, 2020.
- Canale, M. *From Communicative Competence to Communicative Language Pedagogy*
In J. C. Richards & R. W. Schmidt (Eds.), *Language and Communication*, 2-27, Longman.
- 石井敏「コミュニケーションを成立させる条件」『英語教育』44(7), 11-13, 1994.
- Davies, E. *Error evaluation: The importance of viewpoint*. *ELT Journal*, 37, 304-311, 1983.
- 島田勝正「誤りと訂正フィードバック」*Journal of humanities research*, St. Andrew's University, 5-30 桃山学院大学, 2015.
- 深沢清治「誤答の重みづけに関する比較調査研究」『中国地区英語教育学会紀要』, 16, 67-72, 1986.